

コロンビア・日経奨学金、フィリピンのジャーナリスト ベントウラ氏に決定

米コロンビア大学ジャーナリズム大学院（ニューヨーク、ジェラニ・コブ大学院長）はこのほど、アジア人記者・学生を対象にした「コロンビア・日経スカラシップ（奨学金）制度」の第6回奨学生をフィリピンのジャーナリスト、カトリーナ・ベントウラ氏（27、写真）に決定いたしました。同制度は株式会社日本経済新聞社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：長谷部剛）と同大学院が2017年に共同での創設で合意。ベントウラ氏は2024年8月まで同大学院でデータジャーナリズムを研究します。

ベントウラ氏は2018年にフィリピン大学ディリマン校で放送ジャーナリズムを修めた後、同国のシグナルTVで最年少のエグゼクティブプロデューサーなどを務めました。制作した番組によりヒューマン・ライツ・ウォッチ（HRW）などの人権報道賞を含む複数の賞を受賞。ベントウラ氏は「スカラシップを得られたことを誇りに思う。フィリピンでの選挙報道を通じ、ネット上の偽情報に対抗するためにはデータによる報道が重要だと感じた。コロンビア大ジャーナリズム大学院では、データの収集・分析だけでなく、事実に基づく情報を人々に届ける術を学びたい」と話しています。



「コロンビア・日経スカラシップ制度」では、コロンビア大学ジャーナリズム大学院がアジア全域を対象に将来有望なジャーナリストを毎年1人選出し、日経がこれを承認。奨学生は10万ドル（約1450万円）の奨学金を得て、データジャーナリズムや経済報道などについて学びます。修士号を取得後はそれぞれの母国・地域に戻り、民主主義の根幹をなす「言論の自由」に基づく健全なジャーナリズムを根付かせる先導役を担います。

コロンビア大学ジャーナリズム大学院について

コロンビア大学は1754年創立の全米でも5番目に古い伝統校で、80人超のノーベル賞受賞者が輩出しました。1912年創立のジャーナリズム大学院は1917年からピューリッツァー賞を運営。研究分野は調査報道、放送、マルチメディア、芸術など多岐にわたり、2010年には大学院内にデジタルジャーナリズム・センターを設置して将来のメディアのあり方を研究しています。

詳しくはこちら www.journalism.columbia.edu

日本経済新聞社について

日本経済新聞社は1876年以来、140年以上にわたってビジネスパーソンに価値ある情報を伝えてきました。約1500人の記者が日々、ニュースを取材・執筆しています。主力媒体である「日本経済新聞」の販売部数は156万部、2010年3月に創刊した「日本経済新聞 電子版」をはじめとするデジタル有料購読数は101万で、有料・無料登録を合わせた会員数は620万を上回っています。

本件に対する問い合わせ

日本経済新聞社 広報室 [TEL:\(03\)3270-0251](tel:0332700251) (代表)